

補修フォーラム・新潟

工法選定の考え方等解説

JCMA

北海道から沖縄まで全国25会場で順次開催しているコンクリートメンテナンス協会(JCMA、徳納武使会長)主催の「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム」が11日、新潟市の朱鷺メッセで開かれた。当日は、自治体関係者ら約

110人が聴講、塩害によるコンクリートの劣化に悩む同地域の補修・補強対策への関心が現れていた。



カリシリ力反応(ASR)が多い土地。過酷な劣化環境の中で、私達は補修に取り組んできた。最初は失敗も多かったが長年

講習に先立ち挨拶にたった徳納会長は「広島で約16年前に協会を発足。広島は海砂による塩害、融雪剤による塩害、アル

やっていこううちに失敗をしない工法というものが解ってきた」と協会の取り組みを紹介。また、今回の講習会について「昨年まではコンクリートの劣化のメカニズム、そしてその対処方法に重点を置いて開催してきた。今年には補修等を前提の考え方について重点を置いた内容のものとしている。この地、新潟では昨年に続き二回目の開催となった。コンクリートの補修は難解だとよく聞く。しかし、コンクリート補修のシナリオをデザインし、シナリオに沿って調査から診断、設計、そして補修設計・工事という段階にそっていくと難解な問題も解くことが出来る」と講習会の趣旨を説明した。写真。

同講習会は、二部構成で進められ、一部では極東興和の江良和徳氏が「コンクリートの劣化と補修工法選定の考え方」と題して、塩害、中性化、ASRといったコンクリート構造物の劣化要因に対応した補修・補強工法選定の考え方等について講演。第二部では日本ペイント販売のコンクリート診断士・中丸大輔氏が「コンクリート剥落防止と塗膜型剥落防止システムについて」と題して、塩害対策では電気防食同様に注目されている新技術の解説を行った。

同講習会は5月8日の福岡会場を皮切りに、8月8日の札幌会場まで、各地で開催されている。日程・参加申し込みは同協会ホームページに詳細

が掲載されている。なお、土木学会の認定を受けてCPDプログラムとして

いる。